

北海道大学病院 女性医師等就労支援室の取り組み

様々なライフスタイルを保ちながら社会貢献ができる
医療人育成を目指します。



ごあいさつ

●病院長 寶金清博



女性医師の問題は、医師数の不足の観点から、注目されてきました。しかし、ご存じのように、各大学の医学部定員の増加政策により、多少タイムラグがありますが、近い将来、「数」だけを言えば、この問題は解決と言われております。今後は、地域偏在、診療科による偏在の問題が残されません。

女性就業の問題の中でも、女性医師の問題は、特殊なものではありません。しかし、ライフステージに合わせた就業と社会貢献、教育を受けた地域社会への還元のある方の視点から考えますと、決して女性だけの問題ではありません。男性医師や一定の規制条件の下で就業する医師の問題に広く関わっています。上記の問題の解決の重要な鍵として、女性医師の就業問題は、本院ばかりでなく、医療社会が正面から向き合うべき問題です。

本院も平成22年度から、女性医師等就労支援事業を立ち上げ、様々な取り組みを重ねてきております。育児支援、短時間就業支援など、ライフスタイルに合わせた就業環境を整備することで、北大病院全体の就業環境への好影響が目に見える形になりつつあります。今後、本院が、「地域に愛され、信頼され、力強く前進する大学病院」を目指すためには、女性医師等の活躍は必須の要件です。

「先端医療を北大から・・・北大から世界へ」は、本院のもう一つの目標です。その意味で、「女性医師等の就業環境」の点でも先進的な北大病院を目指して、レベルアップを図って参ります。どうか、皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

●女性医師等就労支援室長 内科II教授 渥美達也



平成22年から始まった当院の女性医師等就労支援事業は、平成26年4月、北海道大学病院女性医師等就労支援室が正式に発足して、この事業を担うこととなりました。初代の室長として、ご挨拶申し上げます。

他の医療職種と同様に、医師や歯科医師の業務内容が専門化・多様化するにつれ、それに対応すべく費やさなければならない時間は指数関数的に増加しております。したがって、どの医療機関でも、社会に求められる医療を提供するための医師・歯科医師の必要数は、それと平行して増加しています。北海道を含めて、多くの地域で基幹的医療機関ですら医師不足を訴える理由のひとつが、業務量に対する医師・歯科医師数の相対的減少といえるでしょう。

特に、長時間の勤務や当直・休日勤務業務がルーチンである医師の必要数は、いくら全国の医学部が学生の定員を増やしても、未だ充足される見通しはありません。このような背景のなかで、医学部卒業生の3割強が女性であることを考えると、女性医師、あるいは子育て世代医師の労働環境を整備して、医療に参加いただく機会を増やすことの重要性はいうまでもありません。

北海道大学病院は、高度で最先端の医療を患者さんに提供するとともに、医育機関として若手医師・歯科医師の各専門研修をおこない、「一人前の専門医」を養成して社会に送り出す機能をあわせもちます。この専門研修中の医師・歯科医師は、ライフステージにおいてちょうど出産や育児の時期とも重なることが多いステージです。大きなエフォートで育児を担当する女性医師等の復職を促し、効率よく業務や専門研修をおこなう体制を整えること、その結果としてできるだけ多くの能力ある専門医を育成・輩出していくことが本支援室の第一の目的です。

皆様のご理解、あたたかいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ

●女性医師等就労支援室員(内科II助教) 西尾 妙織



北海道大学病院女性医師等就労支援室の室員としてこの事業に取り組みさせていただく事になりました。‘女性医師等’という言葉からこの支援室は女性医師を支援する事業である印象を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかしながら、‘等’の中には男性医師も含まれます。医師という職業の特性上、長時間業務、当直、夜間の呼び出し等、子育てを行っている女性がすべての業務を他の医師と同等に行う事は困難と言わざるを得ません。女性医師の割合が増加している現状で、子育て世代の女性医師の離職は、単純に医師不足の問題だけではなく、共に働く仲間の負担増など多くの問題があります。女性医師の就労環境を支援することは、女性医師のみならず、男性医師も含めた医師全体の就労環境を支援することに繋がります。

また、女性医師のキャリア形成においては、医師国家試験合格者に占める女性の割合が40%になりつつある中で大学にて診療や研究を継続し、リーダーシップをとって活躍している女性医師は極端に少なく、全国的に講師以上の女性教員の割合は5%以下とされます。臨床医としてあるいは研究者としての女性の割合が増加していないのは、育児のためにキャリアアップを断念している若手女性医師が多い事が原因と考えられます。

皆様にご指導いただき、北海道大学病院において女性医師・研究者がキャリア形成を諦めることなく勤務を継続し、活躍することができるよう、尽力したいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

●女性医師等就労支援室員(特任助教) 清水 薫子



平成22年度より当院にて女性医師等就労支援事業が開始され、当初より特任助教の拝命にて事業に従事させて頂いております。女性の社会進出、少子化問題が顕著となり、国策として男女共同参画、ワークライフバランスの尊重が掲げられ、医療の現場においても様々な対応が急務となっております。就労を希望するが画一化された労働形態のみでは雇用困難である層を活かせる社会への変革がひいては個人レベルから国レベルでの利益を生み出すと考えられ、医療界にも同様の理論が成り立ちます。全医療者がジェンダー・ワークライフバランスに関する知識を習得し、それに対する自己の考えを持ち、医療人が果たすべき責任を認識する必要があります。また女性だけではなく、医療界全体の問題であるという意識の基での時代に適した改革が必要となります。医療界全体の利益を考える際に男性医師・男性同様に就労する女性医師への過重労働の偏在に対する依存では早期破綻を招きます。ある水準の労働力が確保された環境において、様々な就労形態が許容されるため、正のサイクルを生み出すためには全医療人の就労環境が整備されなければなりません。ただ、医師という職務の特異性として、当直・夜間呼び出し、遠隔地出張、長時間手術など社会的にはフルタイムの勤務をしている状況でも担うことが困難な業務を包含します。診療科によって、また地域によっての特色も極めて重要であり、ある一定の方策が必要となる一方で「ご当地」でのルールが実際の稼働の決め手となると考えられます。

皆様から御指導・御鞭撻を戴き、大変微力ではございますが、北海道大学病院における男女共同参画の歩みに多少なりとも貢献できると幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。

取り組み概要

近年、医学部卒業生の33%を女性が占め、女性医師の割合が年々増加しております。勤務医不足や大学での臨床に携わる医師不足が社会問題になっている現在、女性医師がその能力を生かして、子育て等をしながら継続的に就労できる環境を整えることは、臨床現場の定着率を高め、離職・退職の軽減につながり、他職種同様多様な進む全医療人の包括的な活動性の促進をもたらします。

平成22年度より始まった当事業では、まずは女性医師の出産・子育ての支援システムの構築や家庭生活を大事にしながらキャリアアップできるような就労システムを充実させていくことが真の男女共同参画を実現するための基礎作りと考え、以下の3点を中心に活動しています。

「1.相談窓口」

保育や勤務形態、復職など様々な相談を受け付けるほか、ホームページ(<http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/>)での、保育施設や病後児保育室の紹介等を行っています。

「2.復職支援・人材育成・啓発活動」

産休・育休からの復職者への研修をサポートするほか、復職者を受け入れ指導する診療科を支援します。

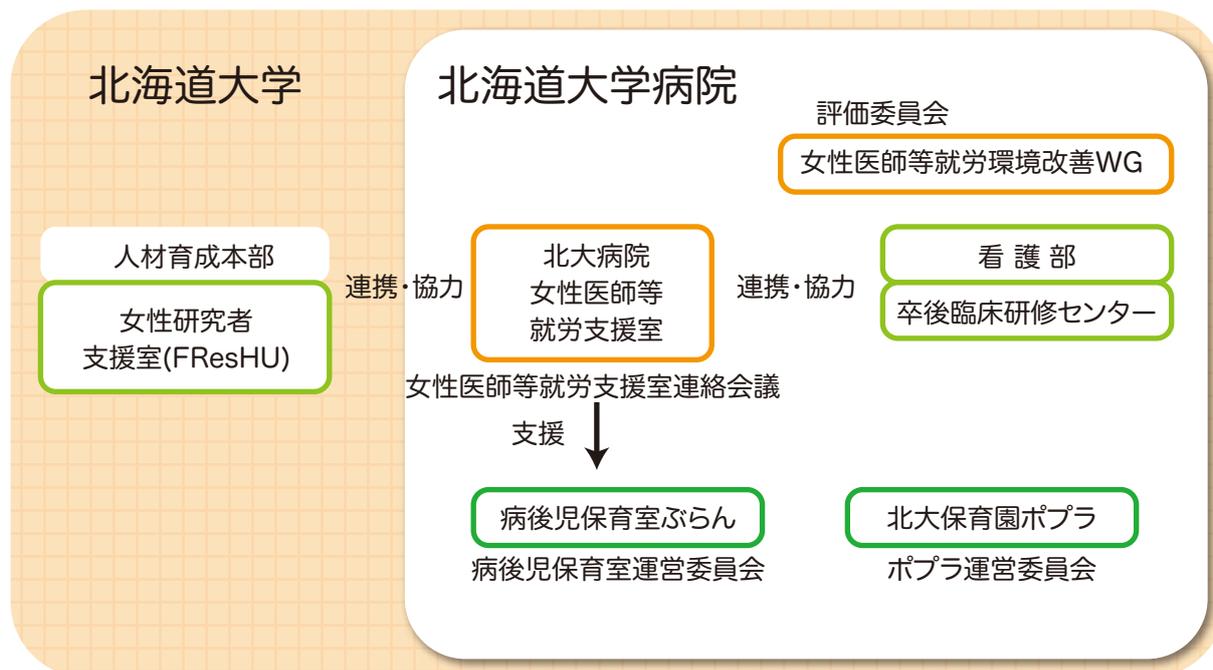
またホームページでも、ロールモデルである先輩医師の体験談(<http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/message>)・各診療科からのメッセージ(<http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/support>)を紹介するほか、現役医師とのおしゃべりの会の開催、卒後臨床研修センターとの連携により適切なメンター紹介、医学部授業への介入など、復職世代のみならず、学生・研修医という若い世代への働きかけを行っています。さらに、院内講演会により全職員への情報提供ならびに啓発活動を目指します。

「3.育児支援」

本院職員から強い要望があった病後児保育室が平成23年2月に“病後児保育室ぶらん”として実現し、子供をもつ職員が安心して勤務できるような環境作りに取り組んでいます。さらに、平成24年度には新たな短時間勤務医員枠である“すくすく育児プラン”を設置し、育児中の医師がワークライフバランスを保ちながら勤務を継続しうる環境整備に努めています。



北海道大学病院女性医師等就労支援室 組織図・連携図



女性医師等就労支援室

渥美 達也	室長	内科II教授
西尾 妙織	室員	内科II助教
清水 薫子	室員	女性医師等就労支援室特任助教
加勢 久子	事務担当	総務課労務管理係

病後児保育室運営委員会

飯田順一郎	副病院長
小林 一郎	小児科/講師
佐藤ひとみ	看護部/副看護部長
渥美 達也	内科II/教授
田中 宏和	事務部長
河野 孝紀	厚生労務室長
西尾 妙織	内科II/助教
清水 薫子	女性医師等就労支援室特任助教
大石 和博	総務課長
入澤 秀次	経営企画課長

女性医師等就労支援室連絡会議

渥美 達也	内科II/教授
八若 保孝	小児・障害者歯科/教授
西村あや子	薬剤部/薬剤師
佐藤ひとみ	看護部/副看護部長
渋谷 斉	診療支援部(検査・輸血部)/技師長
大石 和博	総務課/総務課長
西尾 妙織	内科II/助教
清水 薫子	女性医師等就労支援室特任助教

北大病院保育園ポプラ運営委員会

筒井 裕之	副病院長
長 祐子	小児科/助教
佐藤ひとみ	看護部/副看護部長
渥美 達也	内科II/教授
田中 宏和	事務部長
望月 恒子	女性研究者支援室/室長
河野 孝紀	人事課厚生労務室/室長
齊藤 聖子	子どもの園保育園/園長
藤田 恵美	(委託業者)保育運営室/室長
梶原 澄香	保育園ポプラ/園長
西尾 妙織	保護者代表/内科II助教
大村 朗子	保護者代表/看護師
清水 薫子	女性医師等就労支援室特任助教

取り組み紹介

1. 育児支援

病後児保育室ぶらん

お子さんが病気の回復期で安静に過ごさせてあげたい時などにお子さんをお預かりする施設です。専門の看護師や保育士のいる保育室で、ゆったりと無理なく体力を取り戻せるよう過ごせます。

http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/child_care/child_care_1/buranpage

- 開室日：月曜～金曜（年末年始・祝日除く）
- 開室時間：7時30分～18時30分
- 定員：1日4名（生後6ヶ月～満1歳未満は原則1日2人まで。1歳以上の利用予約がない場合、3人まで利用可。）
- 対象年齢：生後6か月～小学校6年生の児童
- 利用対象：北大病院に勤務する教職員（医学研究科及び歯学研究科所属の診療に従事する職員・学生を含む）の子ども
- 利用料金：1日2,500円 半日（4時間未満）1,500円



利用者の声

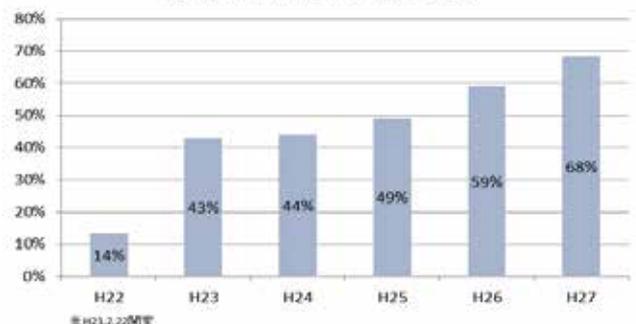
朝、急に発熱し、保育園に行くことができず困っていたため大変助かりました。落ち着いた場所で安静に過ごせ子供も休むことができました。職場に近いのも大変便利です。(30代・医師)

本調子でないむずかる子供にあたたかく接していただき助かりました。清潔な施設で楽しいおもちゃで遊ばせてもらい満喫していたようです。経過も看護師さん・保育士さん両者から詳細に記入いただき、よく理解できました。またお願いしたいと思います。(30代・医師)

実際に利用してみたら、その利用のしやすさに驚きました。部屋もきれいで大変よかったです。(30代・医師)

年齢や体調など受け入れが難しいかなと思ったが、どうしても勤務しなければならず、家族の協力も難しかったのでダメ元で相談したところ、とても親身に相談に乗っていただき、受け入れ可能として頂いたのがとても助かりました。スタッフの方々も皆優しく安心して預けることができました。また利用したいです。(20代・看護師)

ぶらん開室日における利用率推移



保育園ポプラ

24時間365日保育

原則、北海道大学病院に勤務する職員の生後3か月から小学校就学前の乳幼児(医学研究科及び歯学研究科所属の診療に従事する職員・学生を含む)※一時保育は登録制。北大職員であれば利用可。(利用状況により受入できない場合も有)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/category/109.html>



すくすく育児支援プラン(育児短時間勤務医員)

女性医師・男性医師を対象とした育児支援のひとつとして設置された短時間勤務医員枠です。

産休・育休等からスムーズに職場復帰できるよう、時間外労働などを免除し、仕事と育児の両立がしやすい環境を整え、さらには外来等担当医師の負担を軽減する人材としての役割も担うことで医師全体の就労環境改善を目指します。

(※予算の都合により募集を終了する場合があります。)

採用期間	4月1日～翌3月31日までのうち希望する期間
給与	時給1,516円(通勤手当支給)
職名	短時間勤務職員(医員)
福利厚生	社会保険等(勤務時間に応じて加入)
勤務時間	相談の上勤務形態を設定(上限あり)
診療	時間外・宿日直業務なし

利用者の声

フルタイムで働くことは難しかったのですが、仕事を休む期間が長くなると復帰の壁も高くなるので、このような形で少しずつでも仕事ができるのは大変有難いと思います。大学病院は、様々な症例を経験でき、他の先生方にすぐに相談できるので、プラン後の勤務先には適していると思います。

すくすく育児プランを利用するようになってからは、病院としての指定枠ということもあり、育児時間の確保のため、定時帰宅が可能となるよう周囲の協力が得られるようになりました。今後も、働きやすい環境が整っていくことを期待します。

このプランは、スケジュール設定の自由度も高く、今までにない画期的な制度だと思います。この制度を利用できたことで、大学病院の勤務を無理なく継続でき、治験や臨床研究にも参加できました。

育児、家事と、医師としての仕事の両立、バランスのとり方は、人それぞれの考え方や家庭環境、能力によって違うことを実感してきたので、申請者の希望に沿ってくれる本プランは働く親の味方だと思います。柔軟な働き方が、身分を保證される形でできるようになり、これまでと比べて安心して診療を行えるようになったと感じています。

2.相談窓口

平成27年より女性医師等就労支援室のお部屋が設置されました。

室員とコーディネーターがお待ちしておりますので、ぜひお気軽にお越しください。個室なのでプライバシーの心配も不要です。「誰かに聞いてほしい」、「こんな経験のある先生に相談してみたい」「アドバイスをもらいたい」など、面談希望の橋わたし役としてもご協力します！

ぜひお気軽にご相談ください。メール・電話でも受け付けています。



年度別相談件数	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	件数		3	7	15	23	26

3.復職支援・人材育成・啓発活動

現役医師とのおしゃべりの会

年に数回、医学部学生を対象とした「現役医師とのおしゃべりの会」を開催しています。普段ゆっくりお話することのできない第一線で活躍されている先生方をお招きし、お昼の1時間一緒にテーブルを囲んで昼食をとりながら自由にお話しのできる気軽な会となっています。

毎回様々なテーマで各方面の先生方にご協力いただき、参加するたびに新しいお話をきいてもらえるよう企画しています。



第1回 H24.12.19	女性が子育てをしながら第一線で仕事を継続するために必要な様々な力 予防医学講座公衆衛生学教授/玉腰暁子先生
第2回 H25.5.8	私の育児と仕事の両立法 ～学内保育園を利用して～ 病理部助教/畑中佳奈子先生
第3回 H25.11.6	理想のパートナー?? 乳腺外科教授/山下啓子先生
第4回 H26.2.5	研修・科の選択どう考える?～研修医の先生にも聞いてみよう! 初期研修医 3名
第5回 H26.6.11	なるほど!仕事と育児の両立～すくすく育児支援プランを利用して 高階知沙先生・前田由起子先生・菊地順子先生・七戸夏子先生
第6回 H26.11.13	夫婦二人三脚で留学の夢を叶えよう! 内科I/菊地英毅・菊地順子ご夫妻
第7回 H27.12.3	医師・研究者 両方の魅力 腫瘍病理学分野/谷野美智枝先生・内科I/榊原純先生

利用者の声

子供を持つ先生方と話ができ
てとてもよかった。(5年)

全く知識がない私でもとても楽しめた。ためになることばかりだった。(4年)

講演もおもしろかったが、その後のフリートークも楽しかった。(3年)

講演会

年に一度支援室主催の講演会を開催。北大病院の男女共同参画のあり方を皆さんと一緒に考え、それぞれが実践していくことにより、病院全体の環境が全職員にとってより良いものとなっていくよう今後も継続していきます。



平成24年度 H25.2.13	女性が仕事を続けていくために 「医師として働くのは楽しい!」 乳腺外科 山下啓子先生 「働き続けるための選択肢」 公衆衛生学分野 玉腰暁子先生 「育児と仕事を続けるために重要な5つのポイント」 内科Ⅰ 長井桂先生	
平成25年度 H26.2.24	同僚へのサポートは自分を救う?!～支援することで得られるプラス1の人材 「女性医師支援の意義:内科の立場から」 内科Ⅱ 渥美達也先生 「麻酔科から女性医師がいなくなると日本の外科医療は崩壊する?」 麻酔科 森本裕二先生	
平成27年度 H28.2.3	北大病院における男女共同参画への第一歩 「全国における男女共同参画の動向と当院女性医師等就労支援室の取り組み」 女性医師等就労支援室 清水薫子先生 「皮膚科における取り組み」 皮膚科 氏家英之先生	

復職支援

復職者の希望に応じ復職に必要な教材等の提供や補助を行うほか、復職者を受け入れる診療科に対する支援をおこないます。

復職者の感想

仕事を始めるにあたり、必要な知識や技能を研修によって指導してもらえたのでとてもよかったです。

大学病院でしか経験できないことが沢山あり非常に勉強になりました。周囲のサポートが手厚く、安心して仕事ことができました。

術手を忘れておらず安心しましたが、手の動きが悪くなっていたので復帰の時期を遅くしなくて良かったと思いました。

各診療科からのメッセージの紹介

男性・女性医師が共に働きやすい環境作りを目指し、各診療科においても様々な取り組みを行っています。各診療科長からのメッセージとしてその一部をご紹介します。

<http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/support>



先輩医師の体験談の紹介

ホームページでは様々なキャリアをもつ先輩医師からの応援メッセージを掲載しています。
ご自身にあったロールモデルを探し、医師として輝くための参考になればと思います。

<http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/message>

乳腺外科教授 山下啓子先生

私は臨床が好きですし、そこで疑問に思ったことを解決でき、多くの人の役に立つことができる研究の場も大好きです。若い方にはぜひ自分が興味をもって取り組める分野を見つけて、可能性を広げて欲しいと思います。仕事は、まず第一に楽しくなければと思います。



公衆衛生学分野教授
玉腰暁子先生

仕事を続けるためにどうすればよいか、という方法を考えてみてください。続けていける道を選ぶことも大切です。これは、最初に進む分野を決めるときだけでなく、「行き詰まったときに考え直す」ことも含めて。



助教 マリア オルガ
アメンゲアル プリエゴ先生

家族が一つのチームになって、いろいろなことを分担し、「仕事を続ける環境をつくり出すこと」が大切です



教授 渥美達也先生

家族を大事にすること、人を大事にすることは、患者さんや学生に向き合う私たちにとって、たいへん重要なこと

医学研究科 内科学講座・第二内科 渥美ご夫妻

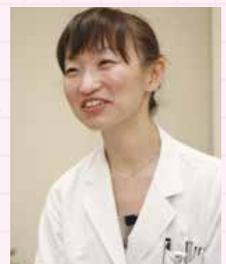
内科II 研修医 重沢郁美先生

女性医師としてのキャリアの早くから子育てをしている先生はまだ多くはないかもしれませんが、先輩女性医師の方々がライフプランを考えるうえでの1つのロールモデルを示していければ幸いです。



病理部 助教 畑中佳奈子先生

自分が「やりたいこと」と「やり続けられること」は必ずしも一致しないこともあります。そのバランスを考えて、自分が納得できるように生活することができればいいですね。せっかく6年間勉強して医師になったのですから、ぜひそのキャリアをどんな形であっても続けてほしいと思います。



これからの歩み

当室の存在・取り組みに関する周知徹底

すぐに情報提供が必要な世代から将来のキャリア形成を考える上で当室の取り組みが一助となりうる次世代を担う研修医・医学生、ならびに管理者への当室の存在・取り組みに関する認知度を上げていきます。

そのために医療者・学生のメーリングリストの拡大、指導医講習会への関わりの継続、卒後臨床研修セン

ター・看護部との連携、外部組織としては北海道女性医師の会や北海道医師会との協力体制を基に継続的なメッセージの発信を行います。また平成28年度には医学部授業への参画も予定しており、女子学生のみならず男子学生の早期暴露による意識改革を期待します。

男女共同参画の啓発

当室の名称が女性医師等就労支援室であるため女性医師支援を目的とする事業と認識されることが多いです。確かにジェンダー（社会的性別）は存在するため、今のところ家事・育児・介護を中心と成って担っている女性医師へのサポートは不可欠です。ただ女性医師をサポートしうる勤務環境の構築、つまりは全職員・家族における勤務形態の多様化が認容されるシステムなくしては医

療界全体の活性化は困難です。

そのためには医療者の絶対数の確保が必要となり、やはり女性医師の勤務継続が必要となります。しかし医師という職種の特異性も考慮に入れるべきで、当直・遠隔地出張・夜間呼び出し・長時間に渡る手術などを担当する医師層の偏在を少しずつ改善する必要があります。

全医療者の環境改善・より良い社会貢献





北海道大学病院女性医師等就労支援室

〒060-8648札幌市北区北14条西5丁目

TEL.011-706-7085

E-mail: jyoseisien1@huhp.hokudai.ac.jp

U R L : <http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/>